

令和6年度家庭科「家庭総合」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 2年 A組～E組
教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍出版)	副教材等	家庭科55デジタルplus (教育図書出版)

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料
4	家庭科の学び方 第1章 生涯を見通す	・家庭科の学び方 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の家庭や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え実践しようとする。 ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・ワークシート
6 7	第2章 人生をつくる 第9章 経済生活を営む ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 ・自立した責任ある消費者として、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・毎日の生活における契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で、契約の重要性について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるように、消費者保護制度について理解する。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習レポートなど
9 10	第7章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 ・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトレポート ・ワークシート ・実験・実習レポートなど

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料
11		4被服を作る	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら、目的に合った被服を製作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているかを理解する。 	提出作品
12		期末考査		期末考査
1	第8章 住生活をつくる	5衣生活の文化と知恵	<ul style="list-style-type: none"> 現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> レポート ワークシート 実験・実習レポートなど
2		1 住生活の変遷と住居の機能		
3		2 安全で快適な住生活の計画		
		3 住生活の文化と知恵		
	4 これからの住生活	期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価の方法

家庭生活への知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価します。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

- 1 授業は、教科書の順番で学ぶのではなく、各単元を融合させて学びます。家庭科は、すべての単元をバランスよく身に付けていくことが大切です。
- 2 日頃から、新聞やニュースを通して社会の動きを把握するとともに、生活情報を収集し積極的に生活課題に取り組みましょう。
- 3 授業で身に付けた知識や技能を日常生活で生かし、日々の生活の改善・充実につとめましょう。
- 4 学習の到達目標を念頭において、新しい社会の動きに即応できる力を身に付けましょう。
- 5 課題などの提出物については、忘れることなく、必ず期限内に提出しましょう。
- 6 被服や調理の実習・実験では、無駄話をさしひかえて安全に協力して進めましょう。